

## 2 医療連携について

「『まいこネット』による診療データの開示と共有」

医療情報部長／吉原 博幸



生涯カルテの実現

まいこネットは、ドルフィンプロジェクト（電子カルテの連携による生涯カルテの実現）の一環として運営されています。1995年ごろから、異なる電子カルテ同士のデータ交換の研究が開始され、2000年に共通規格が誕生。2001年に経済産業省の支援を得て、電子カルテ同士のデータ連携や、患者さんへのデータ開示が可能な仕組みが実現

しました（図1）。すでに、宮崎、熊本、東京で稼働しています。その仕組みは以下の通りです。

- 1) 地域単位で医療情報を保管するデータセンターを設置する。
- 2) このセンターに、患者さんごとの口座を作る（患者さんの申し出による）。
- 3) インターネットを使って、病院で発生したデータを患者口座に送る。
- 4) このデータを患者さん自身が閲覧したり、患者さんの許可を得て病院間でのデータ共有（連携医療）が可能。

### ●まいこネットの運営開始

2006年にNPO京都地域連携医療推進協議会が設立され、京都市にデータセンターを設置しました。2007年4月に京大病院がまいこネットに接続され、2007年10月からデータ開示とデータ連携サービスをスタートしました。2008年9月時点で、まいこネットの口座数は約3000となっています（うち患者口座は500）。利用者はインターネットを使い、パソコン、携帯電話で口座にアクセスし、データの閲覧が可能です（図2）。最近では、病院等では、検査結果、お薬（処方）などを患者さんに印刷して渡すようになっていますが、これをきちんと管理するのは意外と大変です。まいこネットのサービスを使えば、いつでも整理されたデータを閲覧出来ます。現在、京大病院が提供しているデータは、文字データに限られ、レントゲンなどの画像は提供されていません。主に、血液検査の結果、処方内容などを見る事が出来ます。図2のように、2008年10月からは、携帯電話によるアクセスも可能になりました。京大病院の外来で受けた検査の結果が、当日の夕方には携帯電話やパソコンから見る事が出来るようになりました。詳しくはWebで。

[http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/patient/maiko\\_net.html](http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/patient/maiko_net.html)

まいこネットでは、生涯カルテ（EHR）を実現することによって、医療の透明性（患者さんへのデータ開示）、安全性、説明責任を担保し、さらに医療の質の向上と、限りある医療資源の有効利用（医療の連携）を目指しています。今後の電子カルテの普及に伴い、このプロジェクトが社会基盤の一つとなって有効に機能するよう、さらに努力を続けるつもりです。

まいこネットIDのお申し込みは、以下で。

■特定非営利活動法人京都地域連携医療推進協議会事務局  
〒602-0855 京都市上京区西三本木通荒神口下る上生洲町  
197-1 青蓮会館内  
Tel：075-751-3066 <http://www.e-maiko.net/>

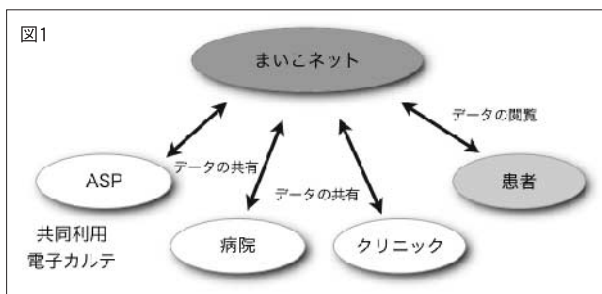


図1) ドルフィン・プロジェクト（まいこネット）のモデル地域ごとにデータセンターを置き、患者毎の口座を設ける。医療機関から口座に医療情報が送られる。



図2) 携帯電話とパソコンによるカルテの閲覧。いずれも、インターネットアクセスさえ可能であれば、どの機種からもアクセス可能。